

上峰町文化財調査報告書第56集

# 上峰町内遺跡確認調査XIV

上峰町内における開発行為に伴う  
埋蔵文化財確認調査報告書  
—令和3年度—

2023年3月

上峰町教育委員会







# 上峰町内遺跡確認調査XIV

上峰町内における開発行為に伴う  
埋蔵文化財確認調査報告書  
—令和3年度—



2023年3月

上峰町教育委員会



## 序

従来、上峰町は「遺跡の宝庫」と言われてきました。北部の脊振山系、その南麓から派生し南北に延びる更新世丘陵と谷、さらに有明海へと続く沖積平野と変化に富んだ地形を含む町域には、いたるところに先人たちの暮らしの足跡が刻み込まれています。教育委員会では、こうした人々の暮らしの足跡、歴史的資産を保存活用し、将来へ継承していくために、開発と文化財の保護との調整に努めてまいりました。

近世以来の純農村集落の面影を色濃く残してきた上峰町は、昭和40年代後半から「農工併進のまちづくり」を理念に掲げ、工業団地の整備による大規模工場の誘致、農業基盤整備事業の実施とまちづくりを進めてまいりました。町の中央を国道34号線が東西に横断し、ここから、福岡県久留米市へは県道が通るという恵まれた交通環境に位置しており、佐賀市や鳥栖市、久留米市へも最適な通勤圏にあるところから、近年人口も着実に伸び、ベッドタウンとして発展してまいりました。これに伴い、各種商業施設、事業所等の町内進出も相次ぎ、上峰町は平成元年の町制施行以来、この30余年間で近代的な田園都市へと大きく変貌を遂げました。

本書は、上峰町内の埋蔵文化財の保護と開発との調整を図るために上峰町が平成元年度より国庫補助事業の適用を受け実施してまいりました町内遺跡確認調査の報告書であります。この開発に伴う町内遺跡確認調査の実施によって多くの遺跡が破壊、消滅をまぬかれ保護されてきました。この報告書を学術的な資料として、また今後の埋蔵文化財保護と開発との調整を図るための資料として役立てていただければ幸いです。

なお、この町内遺跡確認調査にあたって、ご指導、ご協力をいただきました佐賀県、開発事業主体者をはじめ、関係各位に対し深く感謝申し上げます。

令和5年3月

上峰町教育委員会

教育長 野口 敏雄

## 例　　言

1. 本書は、平成元年度から国庫補助事業として、上峰町内で実施してきた町内遺跡確認調査のうち令和 3 年度に実施した町内遺跡確認調査の報告書である。
2. 本書は、令和 4 年度の国庫補助事業により、上峰町教育委員会が作成、刊行したものである。
3. 町内遺跡確認調査は、上峰町教育委員会が実施した。
4. 現場での発掘作業は、重機により表土剥ぎを行い、調査員の指示により発掘作業員が精査し、遺構・遺物の有無を確認した。
5. 現場での図面、写真による記録作業は、調査員が行った。
6. 遺構などの現場における写真撮影及び出土遺物の写真撮影は、調査員が行った。
7. 調査後の出土遺物、記録類の簡単な整理作業は、当該年度にそれぞれ実施した。
8. 本書中の挿図・写真図版などの作成作業は、調査員の指示により、整理作業員が行った。
9. 本書の執筆・編集は、調査員が行った。
10. 本報告書に係る町内遺跡確認調査で出土した全ての遺物及び現場で作成した図面・写真・その他の記録類は、上峰町教育委員会で保管している。

## 凡　　例

1. 「確認調査」・「試掘調査」の用語については、遺跡の範囲内外を基準に「確認調査」・「試掘調査」と区分して取り扱われているが、本書では「確認調査」と統一し表記している。
2. 確認調査番号については、年度ごとに令和をあらわす「R」、年度を表す「数字」、ハイフンの後に一連の番号を付して、調査番号としている。本書中、調査位置図・確認調査一覧表・報文中の調査番号は一致する。  
例) 令和 3 年度に 3 番目に実施した〇〇遺跡確認調査 R03-3 〇〇遺跡
3. 「調査後の措置」については、本文中の標記は最終結果を記載したが、各年度の一覧表中の標記は当該年度末時点での状況を記載している。
4. 本文・挿図中の方位については、全て座標北を基準としている。
5. 先の市町村合併により、上峰町周辺の町村も合併が進み町村名が変更になっている。本書では、必要に応じて現在の市町名のあとに（ ）で旧市町村名も併記している。

## 調査組織

令和3年度

調査主体	上峰町教育委員会		
調査事務局	総括	野口敏雄	上峰町教育委員会 教育長
	事務主任	宗雲英則	〃 文化課長
	経費執行	原田大介	〃 文化課係長
	"	松浦智	〃 文化課主査
	"	伊達有彩	〃 文化課文化係
調査組織	調査員	原田大介	〃 文化課係長
		松浦智	〃 文化課主査
		伊達有彩	〃 文化課文化係
調査指導	佐賀県地域交流部 文化・観光局 文化課 文化財保護室		

## 発掘作業参加者

令和3年度

石橋 泰隆・北野 薫・桑原 扶示康・副島 敏徳・生島 みどり・白土 齋・杉谷 嘉泰・田中 一馬・  
堤 憲次郎・宮崎 正秋・牟田 康孝・山田 富士夫  
江崎 愛子・島 美保子

## 整理作業参加者

江崎 愛子・島 美保子（令和4年度 整理作業員）

## 目 次

序	
例言・凡例	
調査組織・発掘作業参加者・整理作業参加者	
I. 上峰町の位置と環境	1
1. 上峰町の位置	1
2. 歴史的環境	1
II. 調査の概要	6
1. 調査に至る経緯	6
2. 調査の方法	6
III. 令和3年度の確認調査	9
R03-1 坊所二本谷遺跡	13
R03-2 鎮西山城跡	14
R03-3 外記遺跡	17
R03-4 周知外上米多地区	17
R03-5 横寺遺跡(1)	18
R03-6 横寺遺跡(2)	19
R03-7 横寺遺跡(3)	20
R03-8 西前半田遺跡(1)	21
R03-9 三上遺跡(1)	22
R03-10 江迎城跡	24
R03-11 横寺遺跡(4)	24
R03-12 坊所三本松遺跡	25
R03-13 西前半田遺跡(2)	26
R03-14 三上遺跡(2)	27
R03-15 船石遺跡	28
R03-16 三上遺跡(3)	29
R03-17 西前半田遺跡(3)	30
R03-18 杉寺遺跡	32

## 挿 図 目 次

Fig. 1 上峰町内主要遺跡及び周辺遺跡 (1/50,000)	2
2 上峰町遺跡地図 (1/50,000)	7
3 令和3年度 確認調査地位置図 (1/50,000)	12
4 R03-1 坊所二本谷遺跡 (1/5,000)	13

Fig. 5 R03-2	鎮西山城跡 (1/5,000)	14
6 R03-2	トレンチ設定図 (1/3,000)	15
7 R03-2	アスレチック広場 トレンチ設定図 (1/1,000)	15
8 R03-2	ねむの木通り トレンチ設定図 (1/1,000)	16
9 R03-3	外記遺跡 (1/5,000)	17
10 R03-4	周知外上米多地区 (1/5,000)	17
11 R03-5	櫻寺遺跡(1) (1/5,000)	18
12 R03-6	櫻寺遺跡(2) (1/5,000)	19
13 R03-6	トレンチ設定図 (1/1,000)	19
14 R03-6	トレンチ略図 (1/200)	19
15 R03-7	櫻寺遺跡(3) (1/5,000)	20
16 R03-7	トレンチ設定図 (1/1,000)	20
17 R03-7	トレンチ略図 (1/200)	20
18 R03-8	西前牟田遺跡(1) (1/5,000)	21
19 R03-8	トレンチ設定図 (1/1,000)	21
20 R03-8	トレンチ略図 (1/200)	21
21 R03-9	三上遺跡(1) (1/5,000)	22
22 R03-9	トレンチ設定図 (1/1,000)	22
23 R03-9	トレンチ略図 (1/200)	22
24 R03-10	江迎城跡 (1/5,000)	24
25 R03-11	櫻寺遺跡(4) (1/5,000)	24
26 R03-12	坊所三本松遺跡 (1/5,000)	25
27 R03-12	トレンチ設定図 (1/1,000)	25
28 R03-12	トレンチ略図 (1/200)	25
29 R03-13	西前牟田遺跡(2) (1/5,000)	26
30 R03-13	トレンチ設定図 (1/1,000)	26
31 R03-13	トレンチ略図 (1/200)	26
32 R03-14	三上遺跡(2) (1/5,000)	27
33 R03-14	トレンチ設定図 (1/1,000)	27
34 R03-14	トレンチ略図 (1/200)	27
35 R03-15	船石遺跡 (1/5,000)	28
36 R03-15	トレンチ設定図 (1/1,000)	28
37 R03-15	トレンチ略図 (1/200)	28
38 R03-16	三上遺跡(3) (1/5,000)	29
39 R03-17	西前牟田遺跡(3) (1/5,000)	30
40 R03-17	トレンチ設定図 (1/1,500)	30
41 R03-17	トレンチ略図 (1/200)	30
42 R03-18	杉寺遺跡 (1/5,000)	32
43 R03-18	トレンチ設定図 (1/1,500)	32

## 表 目 次

Tab. 1 令和3年度 町内遺跡確認調査一覧表	10・11
報告書抄録	

## 図 版 目 次

PL. 1 R03-1 坊所二本谷遺跡 調査地全景（北西から）	13
2 R03-1 坊所二本谷遺跡 №1 試掘溝（東から）	13
3 R03-1 坊所二本谷遺跡 №1 試掘溝断面	13
4 R03-2 鎮西山城跡 アスレチック広場 調査地全景（南上空から）	16
5 R03-2 鎮西山城跡 アスレチック広場 №22 試掘溝（南東から）	16
6 R03-2 鎮西山城跡 ねむの木通り 調査地全景（写真上が北）	16
7 R03-2 鎮西山城跡 ねむの木通り №28 試掘溝（西から）	16
8 R03-3 外記遺跡 調査地全景（南から）	17
9 R03-4 周知外上米多地区 調査地全景（南西から）	17
10 R03-5 梶寺遺跡(1) 調査地全景（南西から）	18
11 R03-5 梶寺遺跡(1) №1 試掘溝（南から）	18
12 R03-5 梶寺遺跡(1) №1 試掘溝 機械攢削状況	18
13 R03-6 梶寺遺跡(2) №1 試掘溝（北から）	19
14 R03-6 梶寺遺跡(2) №1 試掘溝 遺構検出状況（西から）	19
15 R03-7 梶寺遺跡(3) №2 試掘溝（北から）	20
16 R03-7 梶寺遺跡(3) №2 試掘溝 遺構検出状況（南西から）	20
17 R03-8 西前牟田遺跡(1) №1 試掘溝 遺構検出状況（南東から）	21
18 R03-8 西前牟田遺跡(1) №2 試掘溝（西から）	21
19 R03-9 三上遺跡(1) 調査地全景（南西から）	23
20 R03-9 三上遺跡(1) №3 試掘溝（北から）	23
21 R03-9 三上遺跡(1) №3 試掘溝 遺構検出状況（南東から）	23
22 R03-9 三上遺跡(1) №6 試掘溝 遺構検出状況（南東から）	23
23 R03-9 三上遺跡(1) №7 試掘溝（南から）	23
24 R03-9 三上遺跡(1) №7 試掘溝 木杭列検出状況（南東から）	23
25 R03-9 三上遺跡(1) №8 試掘溝（南から）	23
26 R03-9 三上遺跡(1) №8 試掘溝断面	23
27 R03-10 江迎城跡 調査地全景（南西から）	24
28 R03-11 梶寺遺跡(4) №1 試掘溝（南から）	24
29 R03-12 坊所三本松遺跡 №1 試掘溝 遺構検出状況（写真上が南）	25

30	R03-12	坊所三本松遺跡	No.1 試掘溝 遺構検出状況（北から）	25
31	R03-13	西前牟田遺跡(2)	No.1 試掘溝 遺構検出状況（北から）	26
32	R03-13	西前牟田遺跡(2)	No.2 試掘溝（東から）	26
33	R03-14	三上遺跡(2)	調査地全景（北西から）	27
34	R03-14	三上遺跡(2)	No.3 試掘溝 遺構検出状況（写真上が北）	27
35	R03-15	船石遺跡	No.1 試掘溝 遺構検出状況（写真上が西）	28
36	R03-15	船石遺跡	No.3 試掘溝 遺構検出状況（写真上が東）	28
37	R03-16	三上遺跡(3)	調査地全景（南西から）	29
38	R03-16	三上遺跡(3)	No.2 試掘溝（南から）	29
39	R03-16	三上遺跡(3)	No.2 試掘溝断面	29
40	R03-17	西前牟田遺跡(3)	調査地全景（南上空から）	31
41	R03-17	西前牟田遺跡(3)	No.1 試掘溝 遺構検出状況（写真上が東）	31
42	R03-17	西前牟田遺跡(3)	No.3 試掘溝（南から）	31
43	R03-17	西前牟田遺跡(3)	No.3 試掘溝 遺構検出状況（西から）	31
44	R03-17	西前牟田遺跡(3)	No.3 試掘溝断面	31
45	R03-17	西前牟田遺跡(3)	No.4 試掘溝 遺構検出状況（写真上が東）	31
46	R03-17	西前牟田遺跡(3)	No.5 試掘溝 遺構検出状況（写真上が東）	31
47	R03-17	西前牟田遺跡(3)	No.6 試掘溝 遺構検出状況（写真上が東）	31
48	R03-18	杉寺遺跡	調査地全景（南上空から）	33
49	R03-18	杉寺遺跡	No.1 試掘溝 遺構検出状況（写真上が北）	33
50	R03-18	杉寺遺跡	No.2 試掘溝 遺構検出状況（写真上が南）	33
51	R03-18	杉寺遺跡	No.4 試掘溝 遺構検出状況（写真上が北）	33
52	R03-18	杉寺遺跡	No.6 試掘溝 遺構検出状況（写真上が南）	33
53	R03-18	杉寺遺跡	No.6 試掘溝断面	33
54	R03-18	杉寺遺跡	No.7 試掘溝（西から）	33
55	R03-18	杉寺遺跡	No.8 試掘溝 遺構検出状況（写真上が南）	33



# I. 上峰町の位置と環境

## 1. 上峰町の位置 (Fig. 1)

佐賀県三養基郡上峰町は、佐賀県東部の穀倉地帯である佐賀平野のほぼ中央、三養基郡の西端に位置しており、東部は三養基郡みやき町（旧中原町・旧北茂安町・旧三根町）と、西部は神埼郡吉野ヶ里町（旧東脊振村・旧三田川町）と境を接している。また、この神埼郡との境界は、古代以来の三根郡と神崎郡との郡界を踏襲しており、現在も町のはば中央を東西に横断する国道34号線付近の旧三田川町と境を接する地域は都境地区と呼称されている。

鳥栖市から佐賀市大和町（旧佐賀郡大和町）に至る佐賀県東部には、北部に脊振山地、その南麓に発達する更新世丘陵群、さらに南部には有明海へと続く沖積平野が展開するという、変化に富んだ地形が発達している。なかでも、山麓部から沖積平野へ移行する部分に発達する扇状地を起源とする更新世丘陵群は、山麓部に源を発し有明海へと南流する大小の河川によって浸食され北から南へ延びる舌状を呈した段丘を形成している。そして、これらの段丘の多くは古くから人々の生活の場として利用され、段丘上には数多くの遺跡が分布し、遺跡数、内容ともに県内でも有数の地域となっている。

そのようななか、南北に細長い町域をもつ上峰町においても、北部に脊振山地の山麓、中央部に更新世丘陵群、南部に沖積平野と、この佐賀県東部の特徴的な地形が展開しており、とくに中央部に発達する更新世丘陵地帯を中心にして数多くの遺跡の分布が知られ、古くから「遺跡の宝庫」と呼ばれてきた。

## 2. 歴史的環境 (Fig. 1)

上峰町を中心に佐賀県東部の遺跡を概観すると、前述のとおり、脊振山山麓部から更新世丘陵部におよぶ一帯が古くから人々の生活の舞台となっており、山麓部及び各段丘上には数多くの遺跡の存在が知られ、県内においても特に弥生時代遺跡を中心に遺跡の分布密度が高い地域となっている。沖積地を望む丘陵部のほとんどが、各時代の集落あるいは墓域として占有され、とりわけ、弥生時代以降の遺跡を縄文時代以前の遺跡と比較すると、量的にも、質的にも爆発的に増加、充実する。銅鏡の鋳型を出土した島原市安永田遺跡<sup>1</sup>、約400基の壺棺墓が検出されたみやき町（旧中原町）姫方遺跡<sup>2</sup>、埋納された12本の銅矛を出土したみやき町（旧北茂安町）検見谷遺跡<sup>3</sup>、甕棺墓から舶載鏡を出土した吉野ヶ里町（旧東脊振村）三津水田遺跡<sup>4</sup>、近年の工業団地建設に先立つ調査で貴重な遺構、遺物が検出された神埼市（旧神埼町）・吉野ヶ里町（旧三田川町・旧東脊振村）に跨る吉野ヶ里遺跡<sup>5</sup>など多くの著名な集落遺跡、墳墓群が知られ弥生時代の「クニ」あるいは「ムラ」単位の集団の存在が想定されるに至っている。南北約12km、東西約3kmと南北に細長い町域をもつ本町においても同様に、町の北部から中央部を占める更新世段丘上に弥生時代や奈良時代を中心に各時代の遺跡が分布している。

先土器時代の遺跡についてみると、各段丘で層序が異なる本地域においては本格的な調査がなされていないのが現状で、断片的な遺物の出土、採取にとどまっている。町内では、平成4年度の県営農業基盤整備事業に伴う八幡遺跡の調査において細石刃1点とこの時期のものと考えられる石器類が少量出土しているが、これが発掘調査における主な出土例である<sup>6</sup>。周辺地域では、吉野ヶ里町（旧三田川町）との境界に位置する二塚山丘陵の吉野ヶ里町（旧三田川町）側からナイフ形石器の採取例が報告されている<sup>7</sup>。また、平成5年度の県営農業基盤整備事業に伴う八幡遺跡下層における阿蘇4火葬流跡と埋没林に係る調査において、先土器時代の年代示標となっている姶良-Tn火山灰（AT）の含有ピークが、通常の丘陵上の埋蔵文化財調査において遺構検出面としている「地山」



上林町	12 墓六木谷古墳群	24 坂所池跡	みや町 (日中原町)	47 西原大遺跡	神崎市 (日神崎町)
1 豊の岡古墳群	13 墓土塁跡	25 横寺池跡	36 山田屋古墳群出土地	みや町 (日北波安町)	56 志渡屋六木谷古墳群
2 鎌所山古墳	14 八幡道跡	36 秋寺池跡	37 山川古墳群	48 宮南谷遺跡	57 伊勢原前方後円墳
3 二本松古墳群	15 二ツ山古墳	27 功所一本松道跡	38 大森古墳	49 宮南古墳前方後円墳	58 馬頭道跡
4 剣西山古墳古墳群	16 五本木古墳	28 功所二木松道跡	39 八幡社遺跡	50 大塚古墳	吉野ヶ里町 (日東古墳村)
5 三木松道跡	17 石石道跡	29 場の森の今跡	40 鶴林道跡	51 東尾根斜出土遺跡	西石古墳群
6 服所町古墳群	18 猪石南道跡	30 西前山古道跡	41 離方道跡	52 みや町 (日三郎町)	60 鳥嶺ヶ谷遺跡
7 佐波古墳群	19 朝道遺跡	31 多多良跡	42 絶方南古墳円墳	53 不分貝塚	61 三洋永田遺跡
8 碇三木神道跡	20 一本谷遺跡	32 前半城跡	43 絶方原道跡	54 吉野ヶ里町 (日三四川町)	62 西石動道跡
9 青柳古墳群	21 功所一本谷道跡	33 加茂坂遺跡	44 ダンドン古道跡	55 吉野ヶ里丘陵遺跡群	63 松原道跡
10 新立宮古墳群	22 上のびゆう塚古墳	34 江迎坂跡	45 町南道跡	56 下中村道跡	64 千上原寺跡
11 尾原古墳群	23 日吉原古墳群	35 一ノ郷澤遺跡	46 天神道跡	57 丁藤貝塚	65 墓田遺跡

Fig. 1 上峰町内主要遺跡及び周辺遺跡 (1/50,000)

の表層を構成する黄褐色風積土層の最上部付近、アカホヤ含有層のやや下部にて検出されている<sup>9)</sup>。

绳文時代になると、みやき町（旧中原町）香田遺跡<sup>10)</sup>や吉野ヶ里町（旧東脊振村）戦場ヶ谷遺跡<sup>11)</sup>などが出る。町内においても、これまでも町北部の丘陵部から土器や石器が、耕作や先覚者の遺跡の表面観察などによって断片的に出土、採取されていたが、近年の上峰北部農業基盤整備事業に伴う発掘調査の結果、平成元年度の船石遺跡11区<sup>12)</sup>、平成2年度から5年度にわたり実施した八幡丘陵の調査<sup>13)</sup>において、遺構や遺物がまとまって検出されている。また、近年では町中南部の坊所地区の三上遺跡においても押型文土器をもつ土壙が出土するなど比較的古い時期の遺跡の調査例も増加しており、今後のさらなる調査例の増加が期待されている。

弥生時代になると、遺跡の数や規模、その内容が飛躍的に増加、充実することは先に触れたが、早くから『魏志倭人伝』の「赤奴国」の所在地を佐賀平野東部、なかでも三養基郡西部の旧三根郡にあてる論考が行われてきたことは周知のことである。旧三根郡に所属する上峰町においても、丘陵部のほとんどにこの時期の遺跡が展開している。しかし、町の南部や中央部の米多地区、坊所地区的丘陵部は、中世以降集落として発達し、早くから宅地化が進み、本格的な発掘調査の例に乏しく、わずかに再開発に伴い部分的に小規模な発掘調査が行われているに過ぎず、遺跡の詳細について把握できていないのが現状である。これに対して、町北部の大字堤地区では、近年の工業団地建設や農業基盤整備事業など大型開発に伴い広範囲かつ大規模な発掘調査が実施され、各遺跡から当時の社会の様子を知るうえで貴重な資料が得られている。町内の代表的な遺跡としては、豪棺墓から細形鋼劍や貝鏡を出土した切通遺跡<sup>14)</sup>、吉野ヶ里町（旧東脊振村・旧三田川町）に跨る、佐賀県東部中核工業団地の建設造成工事に伴い豪棺墓、土壙墓など約300基が調査され、船載鏡、小型敏製鏡をはじめとする貴重な副葬品を出土した二塚山遺跡<sup>15)</sup>、佐賀県住宅供給公社の宅地造成に伴う調査で一集団の集落部分の全容が明らかになった一本谷遺跡<sup>16)</sup>、地区運動公園整備に伴う調査で5世紀代の古墳とともに支石墓はじめ多数の豪棺墓が検出された船石遺跡<sup>17)</sup>などが知られている。また、近年の上峰北部県営農業基盤整備事業に伴う調査においても、船石遺跡<sup>17)</sup>、船石南遺跡<sup>18)</sup>、八幡遺跡<sup>19)</sup>から住居址や豪棺墓などが多数検出されている。

古墳時代になると、この地域にも首長墓が出現する。初頭の時期にはみやき町（旧中原町）姫方原遺跡<sup>20)</sup>、上峰町五本谷遺跡<sup>21)</sup>などにおいて方形周溝墓が當まれ、やがて中期にかけて鳥栖市から佐賀市大和町に至る山麓や丘陵部に大型の前方後円墳が出現する。鳥栖市劍塚古墳<sup>22)</sup>、みやき町（旧中原町）姫方古墳<sup>23)</sup>、上峰町西南部から吉野ヶ里町（旧三田川町）に跨る目達原古墳群<sup>24)</sup>、神埼市（旧神埼町）伊勢塚古墳<sup>25)</sup>、佐賀市銚子塚古墳<sup>26)</sup>、佐賀市大和町船塚古墳<sup>27)</sup>など佐賀県東部の代表的な古墳が築かれるようになる。さらに後期になると、現在長崎自動車道や県道佐賀川久保・鳥栖線が通る山麓部から丘陵部に跨る一帯に小円墳を中心とした古墳が多数築かれ、それぞれが山麓部の尾根や谷あるいは丘陵を単位として後期古墳群を形成している。

後の『肥前風土記』にみえる三根郡米多郷に属する当時の上峰町一帯は、『古事記』、『国造本紀』などの記事によれば応神天皇の曾孫にあたる「都紀女加」なる人物が初代の米多国造として中央より下向した地域に比定され、その中心は、町南西部の米多地区から吉野ヶ里町（旧三田川町）東部の目達原（米多の原）一帯にあったと推定されている。町内の主要な古墳としては、都紀女加を始祖とする米多国造一族の豪墓として、5世紀代後半から當まれたと考えられる上のびゅう塚（豪墓「都紀女加王墓」宮内庁管轄）はじめ無名塚、大塚、古稻荷塚、稻荷塚などの前方後円墳ほかなる目達原古墳群<sup>28)</sup>が知られていたが、戦前の陸軍飛行場建設の際に、唯一上のびゅう塚を残し他の古墳は簡単な発掘調査の後破壊されている。また町の北部の古墳としては、同じく5世紀代の古墳で、蛇行状鉄劍、蛇行状鉄矛を出土した船石天神宮境内の船石古墳1～3号墳<sup>29)</sup>が知られている。古墳時代後期の古墳としては、町北部の鎮西山の周辺山麓部から高位段丘にかけて、小円墳を主体とする谷渡、青柳、新

立、奥の院、領西山南麓、星形原などの古墳群が点在している。

一方、この時期の集落遺跡としては、吉野ヶ里町（旧三田川町）下中村遺跡<sup>30)</sup>、吉野ヶ里町（旧東脊振村）下石動遺跡<sup>31)</sup>などが知られているが、弥生時代集落に比べ、遺跡そのものの数も少なく、調査例も少くいまだに実態が明らかになっていないのが現状である。町内の遺跡をみても、当時の政治的中心であったと考えられる町中南部の坊所、米多地区周辺における本格的な発掘調査の例がなく、今後の大きな課題といえる。

奈良・平安時代遺跡としては、吉野ヶ里町（旧三田川町）下中村遺跡、吉野ヶ里町（旧東脊振村）辛上磨寺跡<sup>32)</sup>、盡仙寺跡<sup>33)</sup>などが著名であるが、この時期の遺跡についてもまとまった調査例が少なく、実態はあまり解明されていない。当時の構造として大規模なものは、佐賀平野に敷かれた条里制の構造が上げられ、早くから地名などから条里の復元が試みられ、現在ではほとんどの条里が復元されている。また、大宰府から肥前国府へ通じる官道の調査も進み、近年部分的な発掘調査が行われている。

町内では堤土塁跡<sup>34)</sup>や塔の塚廃寺跡<sup>35)</sup>などが奈良時代の遺跡として戦前から注目されている。町北部の堤地区の八藤丘陵と二塚山丘陵の間の谷底平野を遮断する形で築かれた堤土塁跡は、版築工法により築かれた福岡県の水城に似た施設、「小水城」で、その築造目的が、大宰府の防衛施設であるとする説、灌漑用水確保のための溜池の堤防であるとする説など議論がなされてきたが、平成2年度からの土塁の東方に接する八藤丘陵の調査において、土塁東端から一直線に八藤丘陵を東方へ横断する道路側溝状の構造が検出され<sup>36)</sup>、その性格付けにあらたに古代道の存在が想定されることとなった。また町南西部を占める目達原丘陵の南端部に位置する塔の塚廃寺跡は、百济系車軸丸瓦が発見され、戦前までは基壇、礎石の存在が知られていた奈良時代中期の寺院址で、目達原古墳群を営んだ米多国造一族の流れをくむ三根郡の郡司層によって建立したものと推定されている。また、町内における奈良・平安時代の集落は、農業基盤整備事業に伴う調査や近年の大規模小売店舗建設に先立つ坊所一本谷遺跡<sup>37)</sup>の調査などまとまった調査がなされたのみで、今後の調査例の増加が期待される。

中世になると、北部の山麓部の小峰に山城が築かれ、沖積平野部には聚落を伴う平城や集落が出現する。町内の中世城館址としては、北部の領西山城跡、上峰町中央部の平野を臨む丘陵部に坊所城跡、町南部の平野部には米多城跡、前牟田城跡、江迎城跡、一の橋標塚集落、加茂標塚集落などが知られていた<sup>38)</sup>。しかし、昭和40年代後半からの國場整備事業によって、これら平野部の遺構は、原状がほとんど失われてしまった。そのようななかで、町の親水公園として整備された江迎城跡では18世紀後半代の龍泉窯系の青磁碗が建物跡とともに出土し、また、坊所城跡では16世紀後半代の青花がそれぞれ出土している<sup>39)</sup>。

以上、上峰町を中心に佐賀県東部の遺跡を概観したが、まさにこの地域は遺跡の密度、その内容ともに高く、遺跡の宝庫と呼ぶにふさわしい地域といえる。

## 註

- 1) 藤瀬植博・石橋新次『袖北遺跡群範囲確認調査第3年次概要報告書』鳥栖市文化財調査報告書第30集鳥栖市教育委員会 1980
- 2) 木下秀・天本洋一『姫方遺跡』佐賀県文化財調査報告書第30集佐賀県教育委員会 1974
- 3) 七田忠昭『猿見谷遺跡』北茂安町文化財調査報告書第2集北茂安町教育委員会 1986
- 4) 金闇丈夫・坪井清足・金闇恕『佐賀県三津永田遺跡』『日本農耕文化の生成』日本考古学協会 1961
- 5) 七田忠昭他『吉野ヶ里』佐賀県文化財調査報告書第113集佐賀県教育委員会 1992
- 6) 原田大介『八藤遺跡III』上峰町文化財調査報告書第16集上峰町教育委員会 1999
- 7) 七田忠志『原始』『上峰村史』上峰村 1979
- 8) 下山正一・西田民雄『II. 佐賀県上峰町周辺の地形と地質』『佐賀平野の阿蘇4大幹流と埋没林』上峰町文化財調査報

告書第11集 上峰町教育委員会 1994

- 9) 高瀬哲郎・堀安信・久保伸洋 「香田遺跡」「香田遺跡」 九州横断自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告書2 佐賀県文化財調査報告書第57集 佐賀県教育委員会 1981
- 10) 七田忠志 「佐賀県戦場ヶ谷遺跡」「史前学雑誌』 6-2・4 1934
- 11) 原田大介 『船石遺跡V』 上峰町文化財調査報告書第12集 上峰町教育委員会 1995
- 12) 原田大介 『八藤遺跡II・塙土塙跡II』 上峰町文化財調査報告書第14集 上峰町教育委員会 1998  
前出(6)
- 13) 金間丈夫・金間惣一・原口正三 「佐賀県切通遺跡」「日本農耕文化の生成」 日本考古学協会 1961
- 14) 高島忠平・七田忠昭他 『二塚山遺跡』『二塚山』 佐賀県文化財調査報告書第46集 佐賀県教育委員会 1979
- 15) 七田忠昭 『一本谷遺跡』 上峰村文化財調査報告書 上峰村教育委員会 1983
- 16) 七田忠昭 『船石遺跡』 上峰村文化財調査報告書 上峰村教育委員会 1983
- 17) 鶴田浩二・原田大介 『船石遺跡II 図録編』 上峰村文化財調査報告書第6集 上峰村教育委員会 1988  
鶴田浩二・原田大介 『船石遺跡II 本文編』 上峰村文化財調査報告書第7集 上峰村教育委員会 1989
- 原田大介 『船石遺跡III』 上峰村文化財調査報告書第8集 上峰村教育委員会 1990
- 原田大介 『船石遺跡IV』 上峰村文化財調査報告書第9集 上峰村教育委員会 1991
- 18) 原田大介 『船石南遺跡I』 上峰村文化財調査報告書第21集 上峰村教育委員会 2002
- 原田大介 『船石南遺跡II』 上峰村文化財調査報告書第22集 上峰村教育委員会 2002
- 19) 原田大介 『八藤遺跡I』 上峰町文化財調査報告書第13集 上峰町教育委員会 1997
- 20) 木下巧他 『姫方原遺跡』 佐賀県文化財調査報告書第33集 佐賀県教育委員会 1976
- 21) 木下巧・七田忠昭 『五本谷遺跡』『二塚山』 佐賀県文化財調査報告書第46集 佐賀県教育委員会 1979
- 22) 石橋新次 『劍塚前方後円墳』 烏栖市文化財調査報告書第22集 烏栖市教育委員会 1984
- 23) 前出(2)
- 24) 松尾植作 『目連原古墳群調査報告』『佐賀県史蹟名勝天然記念物調査報告』 第9輯 佐賀県教育委員会 1950
- 25) 木下之治 『古代国家の形成』『佐賀県史』 佐賀県 1968
- 26) 木下之治編 『姚子塚』 佐賀市教育委員会 1976
- 27) 松尾植作 『佐賀県考古大綱』 楽徳博物館 1959
- 28) 前出(24)
- 29) 前出(16)
- 30) 七田忠昭・高山久美子・西田和己 『下中状遺跡』 佐賀県文化財調査報告書第54集 佐賀県教育委員会 1980
- 31) 高瀬哲郎他 『下石動遺跡』『下石動遺跡』 九州横断自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告書(6) 佐賀県文化財調査報告書第86集 佐賀県教育委員会 1987
- 32) 松尾植作 『東脊振村辛上塙寺跡の調査』 『佐賀県史蹟名勝天然記念物調査報告』第6輯 佐賀県 1936
- 33) 田平徳榮他 『霞仙寺跡』 東脊振村文化財調査報告書第4集 東脊振村教育委員会 1980
- 34) 高島忠平・桝一義 『塙土塙跡』 上峰村文化財調査報告書 上峰村教育委員会 1978
- 35) 松尾植作 『塔の廬廬寺址』『佐賀県史蹟名勝天然記念物調査報告』 第7輯 佐賀県 1940
- 36) 前出(12)
- 原田大介 『八藤遺跡III』 上峰町文化財調査報告書第16集 上峰町教育委員会 1999
- 37) 平成5、6年度、上峰町教育委員会調査、整理中
- 38) 米倉二郎 『中世』『上峰村史』 上峰村 1979
- 39) 原田大介 『坊所城跡』 上峰町文化財調査報告書第10集 上峰町教育委員会 1992

## II. 調査の概要

### 1. 調査に至る経緯

上峰町教育委員会では、平成元年度より、国庫補助事業の適用を受け、埋蔵文化財保護と開発との調整を図るために開発行為に伴い町内遺跡について事前の確認調査を実施してきた。民間あるいは公共機関等が主体となって実施される町内における各種開発行為について事前に協議を行い、周知の埋蔵文化財包蔵地の内外にかかわらず、これまでに埋蔵文化財発掘調査歴がない土地については、開発面積や工法等の制約がない限り、開発主体者等に事前の確認調査の実施にむけた協力を要請している。

### 2. 調査の方法

確認調査の方法は、開発予定地に面積的、地形的な制約がない場合、原則として10m×3mの試掘溝により地下の遺構・遺物の有無を確認することとしている。図上で開発予定範囲全体に10mのメッシュを組み、このメッシュに10m×3mの試掘溝を一マスおきに市松模様に設定し、試掘溝の配置計画を作成している。この試掘溝配置計画をもとに現地で試掘溝を設定し、確認調査を実施している。

また、開発面積に対する試掘面積の割合は、事前に図上で試掘溝を設定する時点ではおおむね開発面積の10%を目途としているものの、実際の調査では現地の種々の制約により、試掘溝の規模、配置等は臨機応変な対応を探ることも多く、試掘面積を縮小せざるを得ない場合も少なくはない。

各試掘溝の掘削については、遺構検出面までの掘削には可能な限り重機を使用しているが、重機が使用できない場合、包含層や遺構の掘り下げなどそれ以上の精査が必要な場合は作業員の人力により掘削を行っている。

試掘の結果、遺構などが検出された試掘溝については、適宜、遺構配置等の略測を行い、縮尺1/100程度の平面図、縮尺1/20程度の土層断面図を作成し、フィルムカメラ・デジタルカメラによる写真撮影を行い記録としている。作業終了後は、原則として試掘溝は埋め戻しを行い原状への復旧を図っている。

また、確認調査の結果、開発予定地内から遺構や遺物が検出された場合で、かつ、調査原因が個人専用住宅の建設、個人による自己所有農地の改良など、遺跡の記録保存等に係る経費について、これを開発主体者に求めることが困難であると認められる場合は、本補助事業の予算の範囲内において、検出された地下の埋蔵文化財に工事の影響が及ぶ範囲について記録保存を目的とした必要最小限の本調査を実施することとしている。

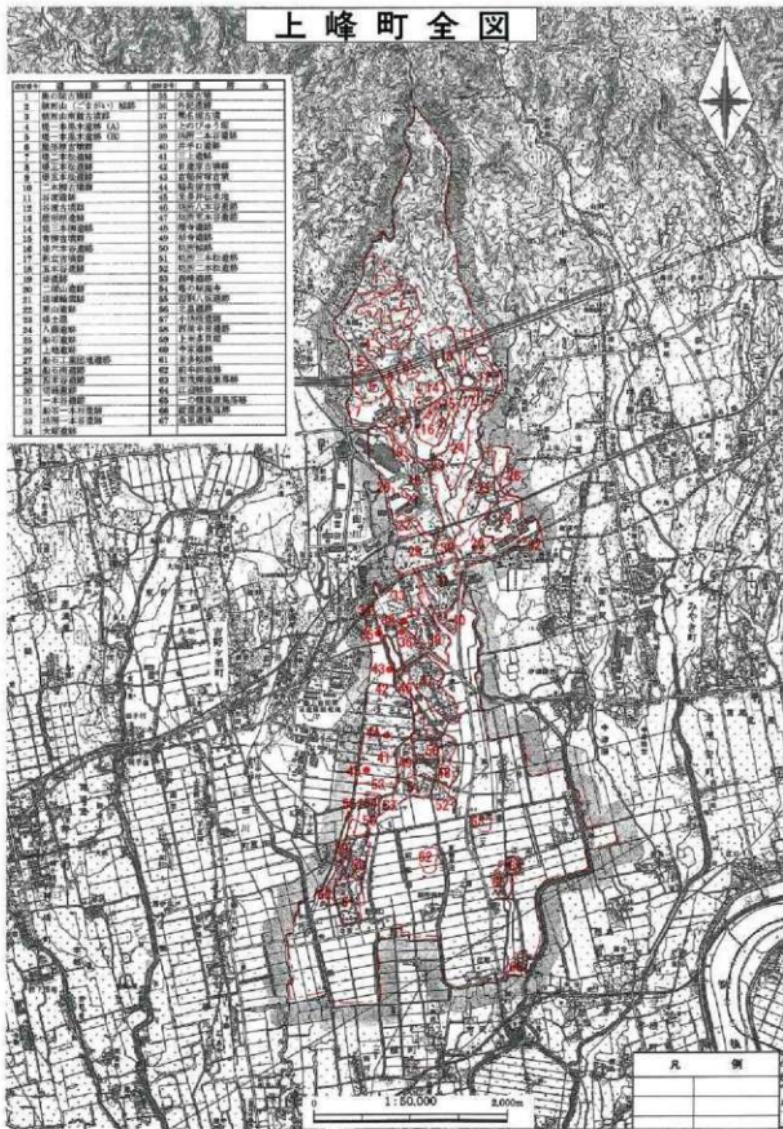


Fig. 2 上峰町遺跡図 (1/50,000)



### III. 令和3年度の確認調査

Tab.1 令和3年度町内遺跡確認調査一覧表

No	遺跡名	所在地	原因者	事業内容	工事面積(m <sup>2</sup> )	調査面積(m <sup>2</sup> )	確認調査時期	確認調査結果	調査後の措置	備考
1	坊所二本谷遺跡	上峰町大字坊所字二本谷 2492番11	個人	個人専用住宅建設工事	314	32	令和3年4月27日	遺構・遺物は確認できなかった。	工事実施	
2	鎮西山城跡	上峰町大字堤字三本黒木 4553番	上峰町	鎮西山再整備事業	15,500	70	令和3年6月25日 令和3年5月26日 令和3年5月28日 令和3年5月31日 令和3年6月1日 令和3年6月2日 令和3年6月7日 令和3年6月8日 令和3年6月8日 令和3年6月10日	アスレチック広場(西古城地区)、ねむの木通り(東古城地区)の確認調査を実施したが、遺構・遺物は確認できなかった。	工事実施予定	人力による表土削除を実施
3	外記遺跡	上峰町大字坊所字五本谷 1976番16	株式会社上かタウン	建売住宅建設工事	216	24	令和3年6月30日	遺構・遺物は確認できなかった。	工事実施	
4	周知外上米多地区	上峰町大字前牟田字五本松 1819番 1823番 1824番1 1826番	高木運輸株式会社	物流施設建設工事	5,199	48	令和3年7月19日	遺構・遺物は確認できなかった。	工事実施	
5	輕寺遺跡(1)	上峰町大字坊所字西峰 2698番21	個人	個人専用住宅建設工事	295	32	令和3年8月4日	遺構・遺物は確認できなかった。	工事実施	
6	輕寺遺跡(2)	上峰町大字坊所字權寺 660番1の一部	個人	個人倉庫建設工事	86	10	令和3年8月11日	土坑を確認した。遺物は確認できなかった。	基礎工事立会後、工事実施	検出された遺構について、工事の影響が及ばないことを確認し、盛土保存
7	輕寺遺跡(3)	上峰町大字坊所字權寺 579番3 579番5 580番3	一建設株式会社	建売住宅建設工事	201	20	令和3年8月26日	土坑・ビットを確認した。遺物は確認できなかった。	下水道工事立会後、工事実施	検出された遺構について、工事の影響が及ばないことを確認し、盛土保存
8	西前牟田遺跡(1)	上峰町大字前牟田字紙淵町 1636番1 1636番7	株式会社アイダ設計	建売住宅建設工事	228	24	令和3年9月7日	瓦状構・ビットを確認した。遺物は赤生土器片、中世の土師質土器片・瓦質土器片が出土した。	下水道工事立会後、工事実施	検出された遺構について、工事の影響が及ばないことを確認し、盛土保存

No	遺跡名	所在地	原因者	事業内容	工事面積(m <sup>2</sup> )	調査面積(m <sup>2</sup> )	確認調査時期	確認調査結果	調査後の措置	備考
9	三上遺跡(1)	上峰町大字坊所字西峰 2923番1 2924番1	株式会社原舎	地光分譲住宅造成工事	1,918	160	令和3年10月6日 令和3年10月7日 令和3年10月8日	堅穴造物跡・溝状遺構・ピット・木杭列を確認した。遺物は古代・中世と考えられる土師器片が出土した。	工事実施	検出された遺構については、工事の影響が及ばないことを確認し、盛土保存
10	江迎遺跡	上峰町大字江迎字一本柳 1212番3	個人	個人専用住宅建設工事	125	12	令和3年11月9日	遺構・遺物は確認できなかった。	工事実施	
11	應寺遺跡(4)	上峰町大字坊所字應寺 660番1	個人	個人専用住宅建設工事	804	24	令和3年12月3日	遺構・遺物は確認できなかった。	工事実施	
12	坊所三本松遺跡	上峰町大字坊所字三本松 918番1	有限会社シティ開発	土地売買に先立つ 埋蔵文化財の有無確認	597	60	令和3年12月21日 令和3年12月22日	井戸跡・土坑・柱穴跡・ピットを確認した。遺物は、土坑から奈良時代と考えられる土師器片、井戸跡から中世の土師器片が出土した。	埋蔵文化財有り	
13	西前牟田遺跡(2)	上峰町大字前牟田字祇園町 1677番2	株式会社おおぞら不動産	土地売買に先立つ 埋蔵文化財の有無確認	230	24	令和3年12月27日	土坑・ピット・近世の埋甕を検出した。遺物は、土坑から奈良土器片が出土した。	埋蔵文化財有り リ。本調査後、工事実施	
14	三上遺跡(2)	上峰町大字坊所字西峰 2723番	有限会社シティ開発	土地売買に先立つ 埋蔵文化財の有無確認	967	90	令和4年1月11日 令和4年1月12日	土坑・溝状遺構・ピットを確認した。遺物は、溝状遺構から中世土器片が出土した。	埋蔵文化財有り	
15	船石遺跡	上峰町大字堤字二本谷 1362番1	個人	個人専用住宅建設工事	529	54	令和4年1月20日	ピットを確認した。遺物は確認できなかった。	工事実施	検出された遺構については、工事の影響が及ばないことを確認し、盛土保存
16	三上遺跡(3)	上峰町大字坊所字西峰 2966番	株式会社CTW	分譲宅地造成工事	1,006	50	令和4年1月21日 令和4年1月25日	遺構・遺物は確認できなかった。	工事実施	
17	西前牟田遺跡(3)	上峰町大字前牟田字祇園町 1635番1	株式会社おおぞら不動産	土地売買に先立つ 埋蔵文化財の有無確認	1,899	180	令和4年1月25日 令和4年1月26日 令和4年1月27日	井戸跡・土坑・溝状遺構・ピットを確認した。遺物は中世土器片が出土した。	埋蔵文化財有り	
18	杉寺遺跡	上峰町大字坊所字杉寺 1373番	株式会社CTW	分譲宅地造成工事	2,674	218	令和4年1月31日 令和4年2月1日 令和4年2月2日	土坑・溝状遺構・ピットを確認した。遺物は須恵器片・土師器片が出土した。	工事実施予定	検出された遺構については、宅地部分は工事の影響が及ばないことを確認し、盛土保存。道路部分について埋蔵文化財の保存に向けた協議が必要
合計					32,808	1,132				

# 上峰町全図



Fig. 3 令和3年度 確認調査地位置図 (1/50,000)

### R03-1

遺跡名：坊所二本谷遺跡

調査地：上峰町大字坊所字二本谷2492番11

工事内容：個人専用住宅建設工事

工事面積：314m<sup>2</sup>

調査面積：32m<sup>2</sup>

調査時期：令和3年4月27日

立地と環境： 坊所二本谷遺跡は、本町堤地区付近か

ら井手口住宅地区付近へ延びる井手口西

丘陵の南部、標高 12~24m 付近に広が

る弥生時代の集落跡である。

調査対象区域は、日連原丘陵から本町

坊所地区に派生する坊所丘陵の東部、標

高 15m 付近に位置しており、これまで宅

地として利用されていた。

遺構と遺物：遺構・遺物は確認できなかった。

調査後措置：工事実施

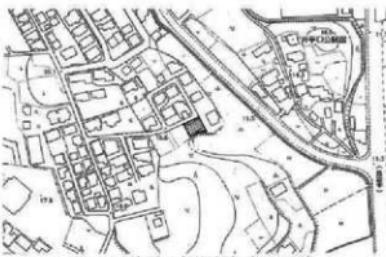


Fig. 4 坊所二本谷遺跡 (1/5,000)



PL. 1 調査地全景（北西から）



PL. 2 №1試掘溝（東から）



PL. 3 №1試掘溝断面

## RO 3-2

遺跡名：鎮西山城跡

調査地：上峰町大字堤字三本黒木4558番

工事内容：鎮西山再整備事業

工事面積：アスレチック広場（西古城地区）9,000m<sup>2</sup>、ねむの木通り（東古城地区）6,500m<sup>2</sup>

調査面積：70m<sup>2</sup>

調査時期：令和3年5月25日、26日、28日、31日

令和3年6月1日、2日、7日、8日、9日、10日

立地と環境： 鎮西山は、脊振山系の九千谷山～石谷山間の南西麓に位置する標高 202m、比高 150m の独立峰である。山頂部には、地表面観察により最高所に主郭、主郭東下に副郭、主郭西下に出丸相当の曲輪跡が確認でき、主郭と副郭の裾を取り巻くように 2～3 段の帯曲輪が付随している。また、各所に土塁や横堀、堀切、堅堀、腰曲輪などの城郭遺構も認められる。これらの残存する遺構の状況から、山頂一帯は戦国時代の山城として機能していたと考えられている。

山頂部から西方へ派生する支丘尾根部分にはアスレチック広場があり、西古城（小城）のしこ名が残るが、公園造成による地形の変化が著しい。また、山頂部から南方へ派生する支丘尾根部分にはねむの木通りという登山道があり、その周りは稜線上に自然の平坦部が広がっており、東古城（小城）のしこ名が残っている。ともに、標高 130～140m 地点に位置している。

遺構・遺物：アスレチック広場に試掘溝 6 カ所、ねむの木通りに試掘溝 3 カ所を設定し、確認調査を実施したが、各試掘溝から遺構・遺物は確認できなかった。

調査後措置：アスレチック広場とねむの木通りは、令和4年度以降に公園設備の解体工事を実施する予定。

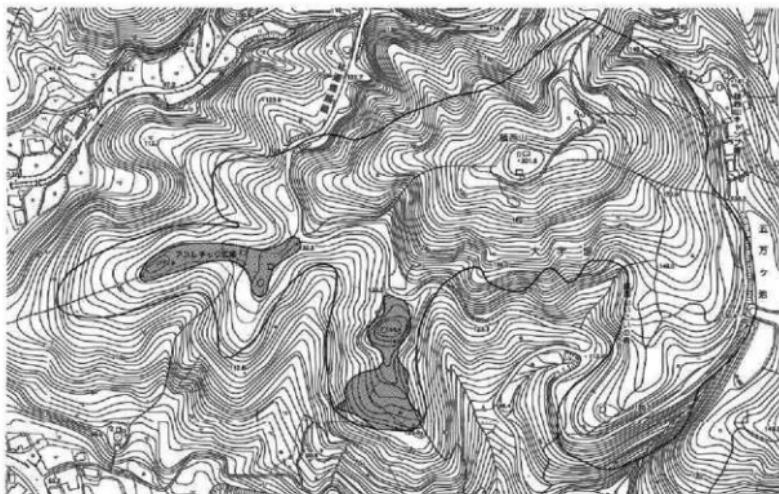


Fig. 5 鎮西山城跡 (1/5,000)

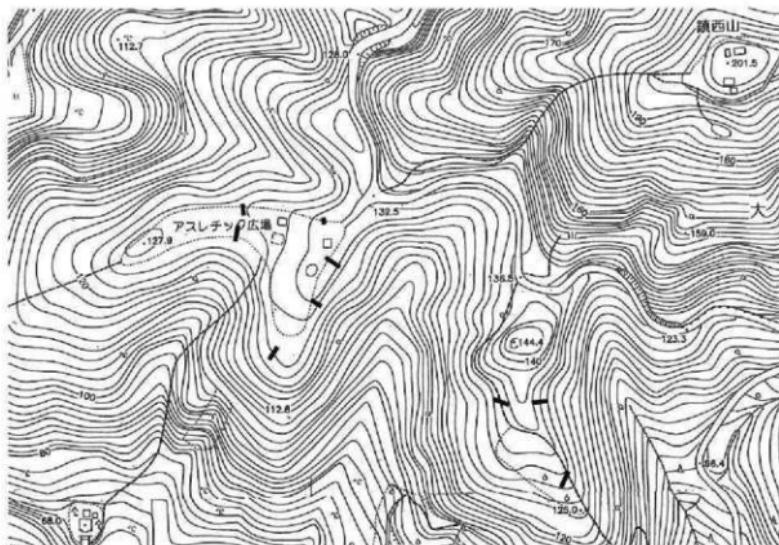


Fig. 6 トレンチ設定図 (1/3,000)

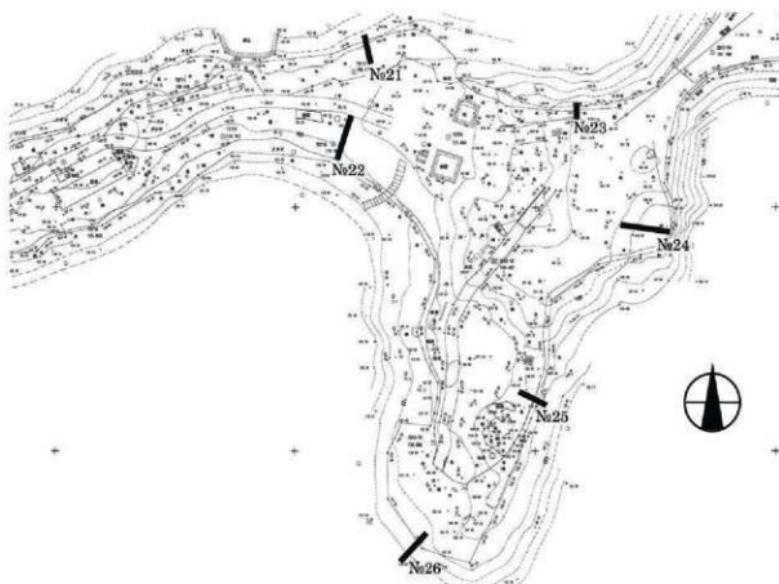


Fig. 7 アスレチック広場 トレンチ設定図 (1/1,000)

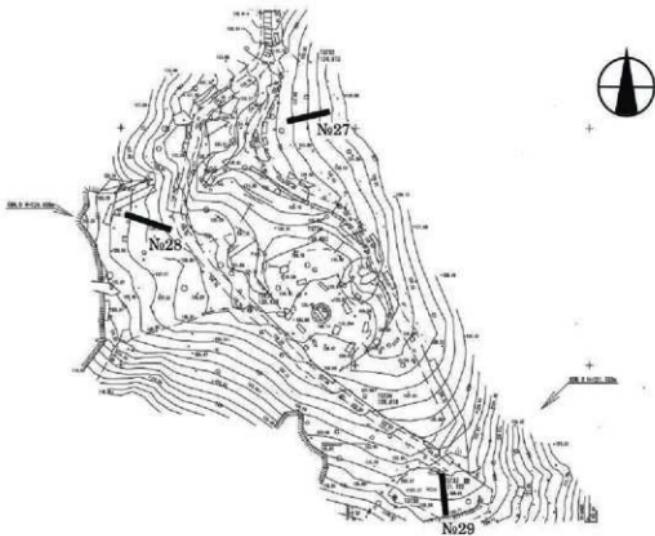


Fig. 8 めむの木通り トレンチ設定図 (1/1,000)



PL. 4 アスレチック広場 調査地全景 (南上空から)



PL. 5 アスレチック広場 No.22試掘溝 (南東から)



PL. 6 めむの木通り 調査地全景 (写真上が北)



PL. 7 めむの木通り No.28試掘溝 (西から)

### R 03-3

遺跡名：外記遺跡

調査地：上峰町大字坊所字五本谷1976番16

工事内容：建売住宅建設工事

工事面積：216m<sup>2</sup>

調査面積：24m<sup>2</sup>

調査時期：令和3年6月30日

立地と環境： 外記遺跡は、本町郡境地区付近から下

津毛地区へ延びる下津毛丘陵北部、標高

15~21m付近に所在する弥生時代から

中世にかけての集落・墳墓遺跡である。

調査対象区域は、下津毛丘陵の基部、

標高16m付近に位置しており、外記溜池

の東南側に位置する。これまで宅地とし

て利用されていた。

遺構と遺物：遺構・遺物は確認できなかった。

調査後措置：工事実施



Fig. 9 外記遺跡 (1/5,000)



PL. 8 調査地全景（南から）

### R 03-4

遺跡名：周知外上米多地区

調査地：上峰町大字前牟田字五本松1819番、1823番、

1824番1、1826番

工事内容：物流倉庫建設工事

工事面積：5,199m<sup>2</sup>

調査面積：48m<sup>2</sup>

調査時期：令和3年7月19日

立地と環境： 調査対象区域は町南西部、吉野ヶ里町

日連原付近から本町上米多地区へ延びる

日連原丘陵の東辺部、丘陵が沖積平野へ

移行する部分標高5~6mに位置してい

る。

調査対象地区に隣接する日連原丘陵上

には、小坊所遺跡、北畠遺跡、西前牟田

遺跡などの遺跡が所在している。これま

で水田として利用されていた。

遺構と遺物：遺構・遺物は確認できなかった。

調査後措置：工事実施



Fig. 10 周知外上米多地区 (1/5,000)



PL. 9 調査地全景（南西から）

### R03-5

遺跡名：樅寺遺跡(1)

調査地：上峰町大字坊所字西峰2698番21

工事内容：個人専用住宅建設工事

工事面積：295m<sup>2</sup>

調査面積：82m<sup>2</sup>

調査時期：令和3年8月4日

立地と環境： 樅寺遺跡は、上峰町大字坊所字樅寺一

帶を占有する弥生時代から中世に及ぶ集

落遺跡で、吉野ヶ里町目達原付近から本

町坊所地区へ延びる坊所丘陵の中央部、

標高約 7~11m 付近に位置している。

調査対象区域は、坊所丘陵の基部、標

高 11m 付近に位置しており、近年まで宅

地として利用されていた。

遺構と遺物：遺構・遺物は確認できなかった。

調査後措置：工事実施



Fig. 11 樅寺遺跡(1) (1/5,000)



PL. 10 調査地全景（南西から）



PL. 11 No.1試掘溝（南から）



PL. 12 No.1試掘溝 機械掘削状況

### R03-6

遺跡名：樺寺遺跡(2)

調査地：上峰町大字坊所字樺寺660番地の一部

工事内容：個人倉庫建設工事

工事面積：86m<sup>2</sup>

調査面積：10m<sup>2</sup>

調査時期：令和3年8月11日

立地と環境： 樺寺遺跡は、上峰町大字坊所字樺寺一

帯を占有する弥生時代から中世に及ぶ集  
落遺跡で、吉野ヶ里町目達原付近から本  
町坊所地区へ延びる坊所丘陵の中央部、  
標高約7～11m付近に位置している。

調査対象区域は、坊所丘陵の南東部、  
標高7m付近に位置しており、近年まで  
宅地として利用されていた。

遺構と遺物：土坑を確認した。遺物は確認できなかつ  
た。

調査後措置：基礎工事立会後、工事実施。検出された

遺構については、工事に影響が及ばない  
ことを確認し、盛土保存。



Fig. 12 樺寺遺跡(2) (1/5,000)



Fig. 13 トレンチ設定図 (1/1,000)



PL. 13 №1試掘溝（北から）

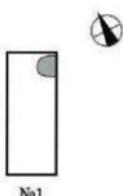


Fig. 14 トレンチ略図 (1/200)



PL. 14 №1試掘溝 遺構検出状況（西から）

## R03-7

遺跡名：樅寺遺跡(3)

調査地：上峰町大字坊所字樅寺579番3、579番5、

580番3

工事内容：建壳住宅建設工事

工事面積：201m<sup>2</sup>

調査面積：20m<sup>2</sup>

調査時期：令和3年8月26日

立地と環境： 樅寺遺跡は、上峰町大字坊所字樅寺一

帯を占有する弥生時代から中世に及ぶ集落遺跡で、吉野ヶ里町目達原付近から本町坊所地区へ延びる坊所丘陵の中央部、標高約7~11m付近に位置している。

調査対象区域は、坊所丘陵の東縁部、標高9m付近に位置しており、これまで宅地として利用されていた。

遺構と遺物：土坑・ピットを確認した。遺物は確認できなかった。

調査後措置：下水道工事立会後、工事実施。検出された遺構については、工事の影響が及ばないことを確認し、盛土保存。

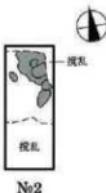


Fig. 17 トレンチ略図 (1/200)

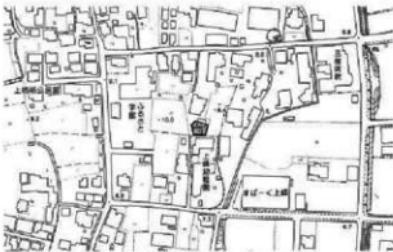


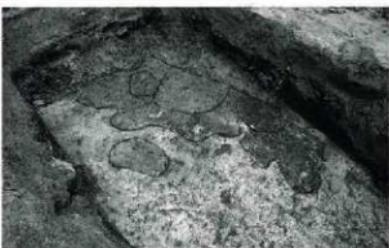
Fig. 15 樅寺遺跡(3) (1/5,000)



Fig. 16 トレンチ設定図 (1/1,000)



PL. 15 №.2試掘溝（北から）



PL. 16 №.2試掘溝 遺構検出状況（南西から）

## R03-8

遺跡名：西前牟田遺跡(1)

調査地：上峰町大字前牟田字紙園町1636番1、1636番7

工事内容：建売住宅建設工事

工事面積：228m<sup>2</sup>

調査面積：24m<sup>2</sup>

調査時期：令和3年9月7日

立地と環境： 西前牟田遺跡は、本町南西部現上米多

集落付近へ延びる目達原丘陵南端部の微高地に位置する弥生時代から中世に及ぶ集落遺跡である。

調査対象区域はこの目達原丘陵の南端部の微高地、標高4~5m付近に位置しており、これまで宅地として利用されていった。

遺構と遺物：溝状遺構・ピットを確認した。遺物は弥生土器片や中世の土師質土器片・瓦質土器片が出土した。

調査後措置：下水道工事立会後、工事実施。検出された遺構については、工事の影響が及ばないことを確認し、盛土保存。



Fig. 18 西前牟田遺跡(1) (1/5,000)



### R03-9

遺跡名：三上遺跡(1)

調査地：上峰町大字坊所字西峰2923番1、2924番1

工事内容：建売分譲住宅造成工事

工事面積：1,918m<sup>2</sup>

調査面積：160m<sup>2</sup>

調査時期：令和3年10月6日、7日、8日

立地と環境： 三上遺跡は、吉野ヶ里町目達原付近か

ら本町米多集落付近へ延びる目達原丘陵の中央部、標高約8~16m付近に広がる  
縄文時代から奈良・平安時代に及ぶ集落遺跡である。

調査対象区域は、目達原丘陵の南部、  
標高8~9m付近に位置しており、これまで畑地として利用されていた。

遺構と遺物：堅穴建物跡・溝状遺構・ピット・木杭列を確認した。遺物は古代・中世と考えられる土師器片が出土した。

調査後措置：工事実施。検出された遺構については、  
工事の影響が及ばないことを確認し、盛土保存。



Fig. 21 三上遺跡(1) (1/5,000)

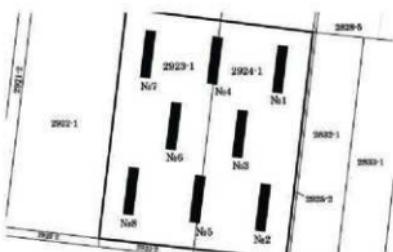


Fig. 22 トレンチ設定図 (1/1,000)

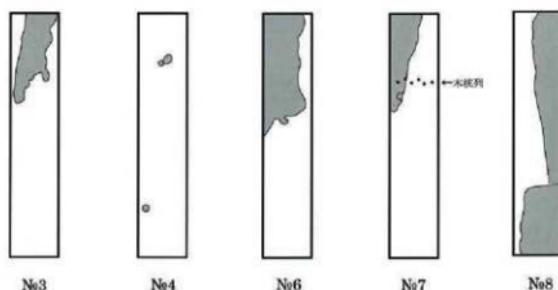


Fig. 23 トレンチ略図 (1/200)



PL. 19 調査地全景（南西から）



PL. 20 №3試掘溝（北から）



PL. 21 №3試掘溝 遺構検出状況（南東から）



PL. 22 №6試掘溝 遺構検出状況（南東から）



PL. 23 №7試掘溝（南から）



PL. 24 №7試掘溝 木杭列検出状況（南東から）



PL. 25 №8試掘溝（南から）



PL. 26 №8試掘溝断面

### R03-10

遺跡名：江迎城跡

調査地：上峰町大字江迎字一本柳1212番3

工事内容：個人専用住宅建設工事

工事面積：125m<sup>2</sup>

調査面積：12m<sup>2</sup>

調査時期：令和3年11月9日

立地と環境： 江迎城跡は、上峰町大字江迎字一本柳

に所在する中世城館跡で、町の南東部江迎地区の沖積地標高4~5m付近に位置している。江迎城跡の中心には、「中の島」と呼ばれる2つの浮島があり、城館の曲輪跡であると考えられている。

調査対象区域は江迎城跡南西部の標高外にあたり、標高4m付近に位置している。これまででは宅地として利用されていた。

遺構と遺物：遺構・遺物は確認できなかった。

調査後措置：工事実施

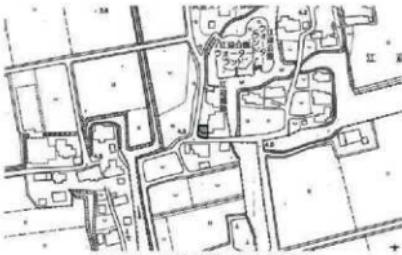


Fig. 24 江迎城跡 (1/5,000)



PL. 27 調査地全景 (南西から)

### R03-11

遺跡名：樅寺遺跡(4)

調査地：上峰町大字坊所字樅寺660番1

工事内容：個人専用住宅建設工事

工事面積：804m<sup>2</sup>

調査面積：24m<sup>2</sup>

調査時期：令和3年12月3日

立地と環境： 樅寺遺跡は、上峰町大字坊所字樅寺一

番を占有する弥生時代から中世に及ぶ集落遺跡で、吉野ヶ里町目連原付近から本町坊所地区へ延びる坊所丘陵の中央部、標高約7~11m付近に位置している。

調査対象区域は坊所丘陵の南東部、標高7m付近に位置しており、近年まで宅地として利用されていた。

遺構と遺物：遺構・遺物は確認できなかった。

調査後措置：工事実施



Fig. 25 樅寺遺跡(4) (1/5,000)



PL. 28 №1試掘溝 (南から)

## R03-12

遺跡名：坊所三本松遺跡

調査地：上峰町大字坊所字三本松918番1

工事内容：土地売買に先立つ埋蔵文化財の有無確認

工事面積：597m<sup>2</sup>

調査面積：60m<sup>2</sup>

調査時期：令和3年12月21日、22日

立地と環境：坊所三本松遺跡は、上峰町大字坊所字

三本松に所在する弥生時代の集落遺跡で、町の中央部坊所丘陵の南端部、丘陵本体から馬の背状に東に向かって伸びる支丘上位置している。

調査対象区域は、標高8m付近に位置しており、地目は山林であるが、実際に烟として利用されていた。

遺構と遺物：井戸跡・土坑・柱穴列・ピットを確認し

た。遺物は、土坑から奈良時代と考えられる土師器片、井戸跡から中世の土鍋片が出土した。

調査後措置：埋蔵文化財有り。



Fig. 26 坊所三本松遺跡 (1/5,000)



Fig. 27 トレンチ設定図 (1/1,000)



PL. 29 No.1試掘溝 遺構検出状況 (写真上が南)

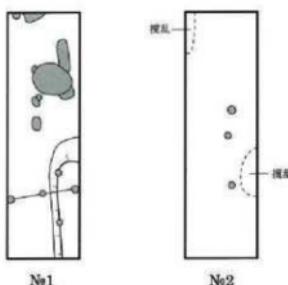


Fig. 28 トレンチ略図 (1/200)



PL. 30 No.1試掘溝 遺構検出状況 (北から)

### R03-13

遺跡名：西前牟田遺跡(2)

調査地：上峰町大字前牟田字紙園町1677番2

工事内容：土地売買に先立つ埋蔵文化財の有無確認

工事面積：230m<sup>2</sup>

調査面積：24m<sup>2</sup>

調査時期：令和3年12月27日

立地と環境： 西前牟田遺跡は、本町南西部現上米多

集落付近へ延びる目達原丘陵南端部の微高地に位置する弥生時代から中世に及ぶ集落遺跡である。

調査対象区域はこの目達原丘陵の南端部の微高地、標高4~5m付近に位置しており、これまで宅地として利用されていた。

遺構と遺物：土坑・ピット、近世の埋甕を確認した。

遺物は、土坑から弥生土器片が出土した。

調査後措置：埋蔵文化財有り。本調査後、工事実施。



Fig. 29 西前牟田遺跡(2) (1/5,000)



Fig. 30 トレンチ設定図 (1/1,000)



PL. 31 No.1試掘溝 遺構検出状況（北から）

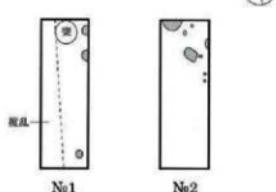


Fig. 31 トレンチ略図 (1/200)



PL. 32 No.2試掘溝 (東から)

R03-14

遺跡名：三上遺跡(2)

調査地：上峰町大字坊所字西峰2723番

#### 工事内容：土地売買に先立つ埋蔵文化財の有無確認

工事面積：987m<sup>2</sup>

調查面積：90m<sup>2</sup>

調査時期：令和4年1月11日、12日

立地と環境： 三上遺跡は、吉野ヶ里町目達原付近か

ら本町米多集落付近へ延びる木達原丘陵の中央部、標高約8~16m付近に広がる縄文時代から奈良・平安時代に及ぶ集落遺跡である。

調査対象区域は目達原丘陵の南部、標高13m付近に位置しており、これまで畠地として利用されていた。

遺構と遺物：土坑・溝状遺構・ピットを確認した。遺物は、溝状遺構から中世土器片が出土した。

調査後措置：埋蔵文化財有り。

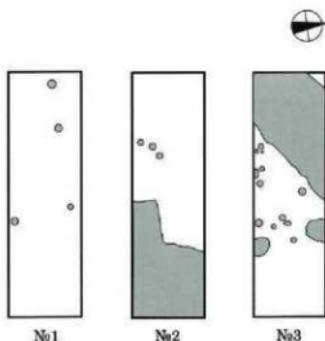


Fig. 34 トレンチ略図 (1/200)



Fig. 32 三上遺跡(2) (1/5,000)

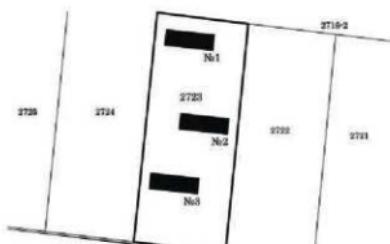
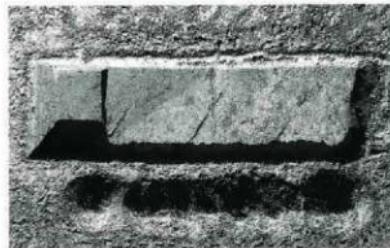


Fig. 33 トレンチ設定図 (1/1,000)



PL. 33 調査地全景（北西から）



PL. 34 №3試掘溝 遺構検出状況（写真上が北）

R03-15

遺跡名：船石遺跡

調査地：上越町大字堀字二本谷1352番1

#### 工事內容：個人專用住宅建設工事

工事面積：529m<sup>2</sup>

調查面積：54m<sup>2</sup>

調査時期：令和4年1月20日

立地と環境： 船石遺跡は、みやき町高柳集落付近から本町切通集落付近へ派生する船石丘陵一帯に所在する弥生時代の集落、墳墓を主体とする縄文時代から中世に及ぶ複合遺跡である。

調査対象区域は、船石丘陵の北西部、標高 27m 付近に位置しており、これまで宅地として利用されていた。

遺構と遺物：ピットを確認した。遺物は確認できなか  
った。

調査後措置：工事実施。検出された遺構については、工事の影響が及ぼないことを確認し、盛土保存。

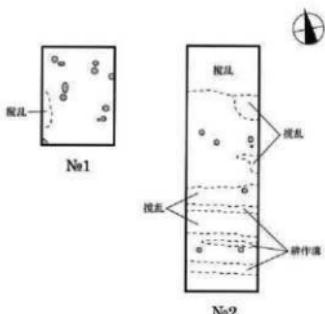


Fig. 37 トレンチ略図 (1/200)

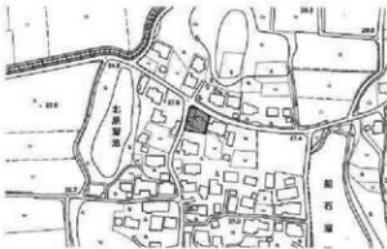


Fig. 35 船石壩 (1/5,000)



Fig. 36 トレンチ設定図 (1/1,000)



### PL-35 №1試掘井 遺憾検出状況(写真上部)



PI-36 №3號掘進 遺構檢出狀況（寫真上部）

R03-16

遺跡名：三上遺跡(3)

調査地：上峰町大字坊所字西峰2966番

工事内容：分譲宅地造成工事

工事面積：1,006m<sup>2</sup>

調査面積：50m<sup>2</sup>

調査時期：令和4年1月21日、25日

立地と環境： 三上遺跡は、吉野ヶ里町目達原付近から

本町米多集落付近へ延びる目達原丘陵の中央部、標高約 8~16m 付近に広がる

縄文時代から奈良・平安時代に及ぶ集落

遺跡である。

調査対象区域は目達原丘陵の南部、標

高 10m 付近に位置しており、これまで畠

地として利用されていた。

遺構と遺物：遺構・遺物は確認できなかった。

調査後措置：工事実施



Fig. 38 三上遺跡(3) (1/5,000)



PL. 37 調査地全景（南西から）



PL. 38 №2試掘溝（南から）



PL. 39 №2試掘溝断面

R03-17

遺跡名：西前牟田遺跡(3)

調査地：上峰町大字坊所字紙園町1635番1

工事内容：土地売買に先立つ埋蔵文化財の有無確認

工事面積：1,899m<sup>2</sup>

調査面積：180m<sup>2</sup>

調査時期：令和4年1月25日、26日、27日

立地と環境： 西前牟田遺跡は、本町南西部現上米多

集落付近へ延びる目達原丘陵南端部の微高地に位置する弥生時代から中世に及ぶ集落遺跡である。

調査対象区域はこの目達原丘陵の南端部の微高地、標高4~5m付近に位置しており、これまで田地として利用されていた。

遺構と遺物：井戸跡・土坑・溝状遺構・ピットを確認した。遺物は中世土器片が出土した。

調査後措置：埋蔵文化財有り。



Fig. 39 西前牟田遺跡(3) (1/5,000)



Fig. 40 トレンチ設定図 (1/1,500)

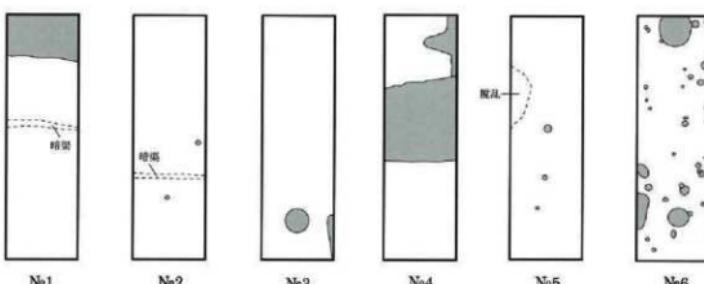


Fig. 41 トレンチ略図 (1/200)



PL. 40 調査地全景（南上空から）



PL. 41 No.1試掘溝 遺構検出状況（写真上が東）



PL. 42 No.3試掘溝（南から）



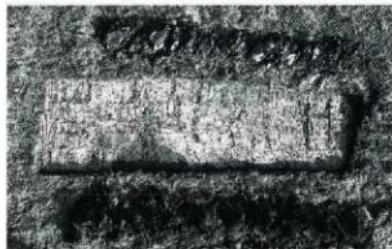
PL. 43 No.3試掘溝 遺構検出状況（西から）



PL. 44 No.3試掘溝断面



PL. 45 No.4試掘溝 遺構検出状況（写真上が東）



PL. 46 No.5試掘溝 遺構検出状況（写真上が東）



PL. 47 No.6試掘溝 遺構検出状況（写真上が東）

R03-18

遺跡名：杉寺遺跡

調査地：上峰町大字坊所字杉寺1373番

工事内容：分譲宅地造成工事

工事面積：2,674m<sup>2</sup>

調査面積：218m<sup>2</sup>

調査時期：令和4年1月31日。

令和4年2月1日、2日

立地と環境： 杉寺遺跡は、本町大字坊所字杉寺に所在する弥生時代から中世に及ぶ集落遺跡である。

調査対象地は、目達原丘陵から本町坊所地区へ派生する坊所丘陵の標高11m付近に位置しており、これまででは畑地として利用されていた。

遺構と遺物：土坑・溝状遺構・ピットを確認した。遺物は須恵器片・土師器片が出土した。

調査後措置：工事実施予定。検出された遺構については、宅地部分は工事の影響が及ばないことを確認し、盛土保存。道路部分については、埋蔵文化財の保存に向けた協議が必要。



Fig. 42 杉寺遺跡 (1/5,000)

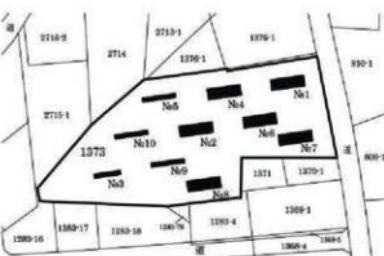


Fig. 43 トレンチ設定図 (1/1,500)

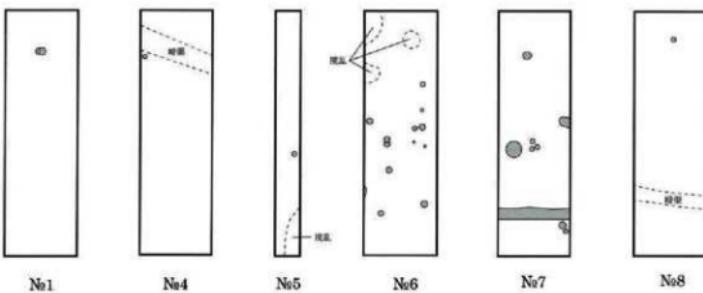


Fig. 44 トレンチ略図 (1/200)



PL. 48 調査地全景（南上空から）



PL. 49 No.1試掘溝 遺構検出状況（写真上が北）



PL. 50 No.2試掘溝 遺構検出状況（写真上が南）



PL. 51 No.4試掘溝 遺構検出状況（写真上が北）



PL. 52 No.6試掘溝 遺構検出状況（写真上が南）



PL. 53 No.6試掘溝断面



PL. 54 No.7試掘溝（西から）



PL. 55 No.8試掘溝 遺構検出状況（写真上が南）

報告書抄録

ふりがな	かみみねちょうないいせきかくにんちょうさ XIV						
書名	上峰町内遺跡確認調査 XIV						
副書名	上峰町内における開発行為に伴う埋蔵文化財確認調査報告書 一令和3年度一						
巻次							
シリーズ名	上峰町文化財調査報告書						
シリーズ番号	第56集						
編著者名	原田 大介・松浦 智						
編集機関	上峰町教育委員会						
所在地	佐賀県三養基郡上峰町坊所319-4 上峰町民センター内 Tel 0952-52-3833/Fax 0952-52-3888						
発行年月日	2023年3月31日						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード	北緯	東經	調査期間	調査面積m <sup>2</sup>	調査原因
町内遺跡	市町村	遺跡番号	° / ′	° / ′			
上峰町内遺跡	佐賀県三養基郡 上峰町一円	41345			2021.4 ~ 2022.3		町内における各種 開発行為
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
町内遺跡	集落跡 墳墓跡 城館跡	弥生 古墳 奈良・平安 中世 近世	住居跡・井戸跡・溝状 遺構・土坑・ピット・ 木杭列・埋甕など	弥生土器・土師器・須恵器・ 中世土器・近世陶器など			

上峰町文化財調査報告書第56集  
上峰町内遺跡確認調査 XIV

令和5年3月31日 発行

編集  
発行 上峰町教育委員会

佐賀県三養基郡上峰町坊所319-4

印刷 大同印刷株式会社

佐賀県佐賀市久保泉町上和泉1848-20







